

<p>中心市街地の 5つの方針 (整備構想より)</p>	<p>必要な視点等についての意見</p>
<p>①交通結節点としての ターミナル機能の強化</p>	<p>【特に意見なし】</p>
<p>②新たな賑わいの創出</p>	<p>●多様性について（ライフステージごとの分類やターゲットの分析）</p> <ul style="list-style-type: none"> 10代後半から20代の若い層が、中心市街地に何かの魅力を感じているのではないか。 町田の良さは、色んな人が色んな目的で来るという多種多様なニーズに応えるという点であるが、最後は何の街だったか、どういう世代に来て欲しいのかということが分からなくなってしまうようなまちづくりが必要。 町田は塾の集積が多いため、大学生・専門学校生の前の中高生層が大きなポイント。 中高生の居場所である半公共的な場所や、図書館のような学習をサポートする場所が、高齢者の方々の次の学びというステップにも繋がる可能性がある。余暇・文化の視点から学び系の部分が不足している。 原町田六丁目地区は若者を中心に人通りが多いが、小田急の西側やJRの南側は人通りが少ないなど、地区によって大分違った印象を受けた。 各地区の特徴を踏まえ、それぞれのターゲットに対応する必要な整備や方策の関係性を見ることが重要。 <p>●連携してまちの魅力をアピール</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地はコンテンツが非常に多く、その魅力をいかに発信するかが大事。色んな活動があるにもかかわらず、一体感が無いために街並みのイメージを统一的にアピールできていない。 情報発信については、良い素材が多くあるにもかかわらず連携しきれていない。町田の良いところを出しながら活性化していくには、人と組織の上手な連携の仕組みが必要。 原町田地区と森野・中町地区とが寸断されており、利用者にとって大きなネックとなっている。これが解決しないと、全体的なバランスのとれた発展は困難。 商業事業者や行政・中活協といった組織間の連携がまだ曖昧。 今後の公共の計画に基づいて整備されていく部分と、まちの活性化を上手く繋ぎ合わせて、三位一体となってやっていくべき。 <p>●賑わいのアクティビティ</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央図書館・中央公民館・市民フォーラムといった公共施設が中心市街地に多くあることで、午前中からたくさんの方が施設に来て活動しているのではないか。 中心市街地において娯楽・文化施設が欠如している。特に原町田三丁目の開発はまだ進んでおらず、原町田一丁目の開発も展開が見えない。今までの原町田を変えていくかどうかポイント。 余暇・文化という点で映画やアートがないので、そういう面をカバーできればもっと若い人達が集まってくるのでは。小田急町田駅北口の大駐車場にコンベンションホールができれば中心市街地も大きな影響を受けるだろう。 町田シバヒロのような空間があってもよいかと思う反面、イベントが行われる土日以外は閑散としており折角の大きな空間が勿体無い。 中高生が学校帰りに塾に通って、長い時間をそこで過ごすような状態もあり、塾以外も含めた環境づくりが重要。
<p>③誰もが快適に歩くことが できるまちづくり</p>	<p>●回遊性（移動しやすい空間づくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て層等にとっての歩きづらさも感じるが、同時に様々な層がそれぞれのスピードで非常に複雑に動いているのが中心市街地の良い点でもあり、今後のあり方を解く鍵である。 中心市街地は、子育て世代等にとっては歩きづらく、移動しづらいが、一方でそれが魅力でもある。それを活かしながら、移動しやすい空間づくりを目指すべき。 ベビーカーや車椅子で来られる方の回遊性も課題があり、これが解決されないと町田に人が寄ってこない。 20～40代のファミリーには学童期の子供がいたり、商業地域の中に小学校が組み込まれてもいるので、商業地域の中を自転車で動き回るといった構図が今後生まれるかもしれない。 ベビーカーだけではなく、安全に子供たちが歩けるという歩行空間のあり方という感覚で見てもらいたい。 <p>●回遊性（歩いて楽しめる空間づくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行者空間に、特にお年寄り・子連れの方が足を止めて逡巡し、まちを楽しむようなスペースがないと、ただ移動するだけの空間になってしまう。 そういったものを核に、色々な魅力ある施設への回遊性を高め、まちをもっと歩いて楽しめる空間づくりが必要。

<p>中心市街地の 5つの方針 (整備構想より)</p>	<p>必要な視点等についての意見</p>
<p>④周辺環境と調和した 良好な都市型住宅の誘導</p>	<p>● 中心市街地における住宅機能の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>中心市街地における住宅立地の変遷や、今後の変化の可能性、その上でどう対応をしていく必要があるか</u>、検討すべき。 ・ 建物を更新する際の財源としての要素と、町田の中心部に住みたいという高齢者や若い人の需要の観点から、資料3-4のB（商店街・生活利便施設集積エリア）とC（生活利便施設・居住混在エリア）には <u>積極的に住宅を立地させるべきと考える</u>が、秩序がなくなり商業空間を害することがないよう、対処しなければならない。 ・ <u>人が住んでいないと商業も発展しない</u>というところがあり、<u>住宅地と商業地は積極的に融合していく時代</u>だろう。 ・ <u>年代別の市街地の変遷</u>をまとめて欲しい。 <ul style="list-style-type: none"> ① <u>住宅開発が中心部に迫ってきているのか、それとも外縁部へ分散しているのか。</u> ② <u>住宅・商業・業務・文化・生活支援の各用途の割合が、この20年間でどう変化しているか。</u> ③ <u>交通や公共空間についても、通りができたことによる変化、歩車分離の変遷など示せないか。</u> ・ 今後の中心市街地において、市民がどこに住むか、住まいをどう集約するか、という視点が不足している。これまで周辺地域に住む人が多かったのが、ライフステージの変化や中高年世代の増加により、駅周辺にコンパクトに住む理由づけになってくるのでは。 ・ これまでの傾向だけでなく、<u>これからどう市街地像にしていくのか、住宅をどう誘導し、複合的な用途の空間にしていくのか</u>が特に重要。 ・ <u>中心市街地の中にも高層マンションが立地</u>してきて、良い点としてはファミリー世帯とともに子供たちが増え、お祭りなどへの参加を通じてまちを一緒につくっていく意識が地元で芽生えたこと。一方、音楽イベント等で苦情が出たこともあり、今後は<u>居住者と立地の関係をどうしていくか</u>が課題。 ・ 中心市街地の商業地への住宅立地を認める方向で、<u>来街者以外に居住者も相手にする方が、安定的であり継続的</u>では。 ・ 町田という特色から、<u>外国人居住の問題</u>が出てくるかもしれない。どのように中心市街地の中に受け止めるか考えておくべき。
<p>⑤安全・安心なまちづくり</p>	<p>● 防犯への関心低下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個店の状況を見ると、住居として住んでいる方が殆どいないため、<u>夜間の安全・安心や治安に関心が無くなってきている</u>。
<p>その他 検討の方向性に関する意見</p>	<p>● 市街地構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JRと小田急の真ん中の三角形のエリアの外縁部は、<u>整備計画において重要なエリア</u>であり、<u>業務・住居と働き方の複合のあり方</u>が今後の検討課題。 ・ <u>車と歩行者、住宅と業務と商業の用途をどのように分けるか、混ぜるか</u>は非常に難しい。ゾーニングで可能なこともあり、ある程度誘導していくような方法がそれぞれあると思う。 ・ <u>まち全体での車利用をどう考えるか、駐車場をどこかに集約するのか、分散させるのか</u>は非常に大きな問題。 ・ 町田駅は2つの線路が十字に交差しおり行き来するのにバリアーになっている一方、4つの象限があってそれぞれに色分けし易い市街地を構成しているので、むしろ<u>象限ごとに場所性をはっきりさせるような捉え方</u>を試みてもよいのではないかと。 <p>● 作業委員会（分科会）による検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若者のストリートカルチャーが関連してそうな施設（原町田六丁目周辺など）や公共空間の一環としてイベントが可能な場所（ぼっぽ町田など）で起こしている活動や、中心部から少し外れた路地に入ったエリアなどで起こっている<u>新しい商業やオフィス空間を創出するような動き</u>を見ていき、<u>これまでの町田をつくってきた方々との間を繋ぐ作業委員会</u>ができると良い。 ・ <u>町田の次のシーズとなる人たちを、中心部の三角形の部分と外縁部を含めて一体的に考えていく</u>ことで、今後必要となる機能や公共空間の話に繋がっていくのでは、という観点から分科会の提案をさせて頂いている。